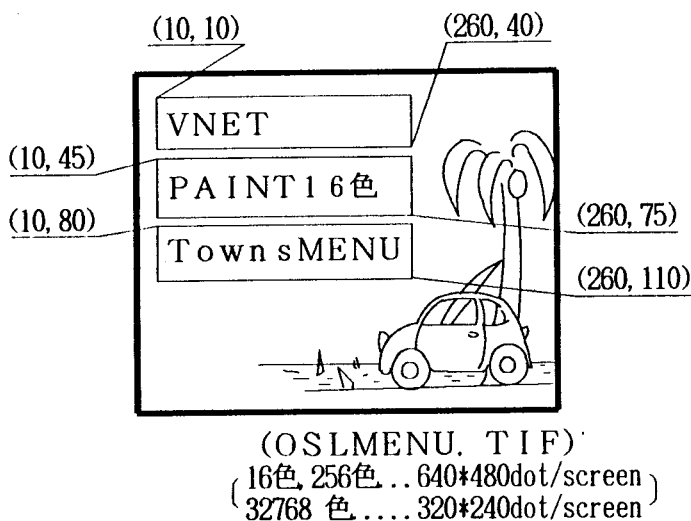


## ♪ 『OSLMENU』の設定

『OSLMENU』を使う場合には、最初にMENUとするための画面データ (TIF:TownPAINTで作成します) を作成し、その画面の座標上のボタンにする矩形範囲の座標を計ります。下図に参考例を示します。

(図-1 OSLMENUの設定サンプル)



OSLMENUによりVNETとTown sPAINTの以上2つのソフトウェアを使える環境を作成するとします。

まず、OSLMENU.TIF という名前でTIFの画像データを作成します。マウスで選択する矩形の範囲を考慮しながら描くと後で処理が行いやすくなります。

絵を保存した後に、OSLMENU.DEF というOSLMENUの環境設定ファイルにボタンとなる矩形の座標と起動するプログラムを記入します。

```
1 :VNET. BAT : (10, 10)-(260, 40)
2 :PAINT. BAT : (10, 45)-(260, 75)
3 :EXIT (10, 80)-(260, 110)
```

(OSLMENU.DEF)

### 【!画面データの作成について】

画面データはTown sPAINTで作成します。16色/256色/32768色の3つの画面モードがOSLMENUで利用できます。出来上がったファイル名はOSLMENU.TIF とつけます。

### 【!環境設定ファイルOSLMENU.DEFの記入フォーマット】

(図-1)にあるように、起動するプログラムと画面に対応するボタンの範囲の座標を記入します。

連続番号	
1	: [起動ファイル名] : [ボタンの左上と右下の座標]
2	: .EXE ど :
3	: .COM れ :
.	: .BAT か :
.	: EXIT or END :

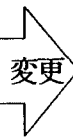
起動ファイルにEND またはEXITが指定されるとそのボタンが実行された場合にOSLMENUが終了します。

起動ファイルで設定できる名前はファイル拡張子がCOM/EXE/BATであるものとEXITとENDです。

## ♪ 『OSLMENU』の起動

OSLMENU.EXEを実行することでメニューが起動されます。(※OSLMENUの必要ファイルにはOSLMENU.EXE とOSLMENU.EXP の二つの実行形式ファイルが存在しますが、起動はOSLMENU.EXE を選択してください。) このファイルをアイテムで登録しておくとう便利です。また、FM TOWNSの電源投入時にTown sMENUの代わりにOSLMENUを起動することもできます。起動ドライブのAUTOEXEC.BATの『CONTROL』の前行にOSLMENUを起動する一行を追加することでTown sMENUの代わりに起動されます。

```
:START
CONTROL
if errorlevel 1 GOTO OAK2ERR
}
```



```
OSLMENU.EXE
:START
CONTROL
}
```

←追加(OSLMENUファイルがルートにある場合)

## ♪最後に

うまく動かない場合はOSLMENU.DOCを参照しながら、試行錯誤して頑張ってください。

編集・発行： 富士通株式会社 パソコンシステム統括部 FM TOWNSシステム部 第1システム課  
 ☎144/東京都大田区新蒲田1-17-25 情報処理システムラボラトリ  
 NIFTY-Serve. ID = NACO2031 林